

富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

2025年（令和7年）7月から9月

- 1 調査期間 2025年7月～9月（第2四半期）
- 2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者
- 3 回答状況

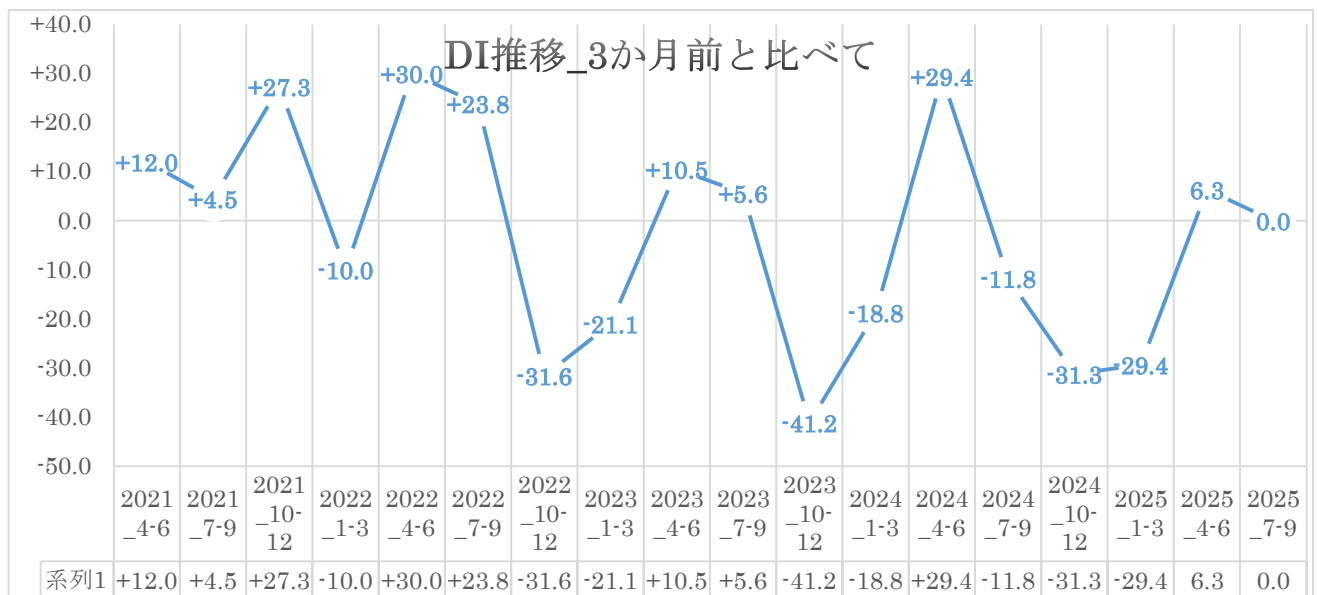
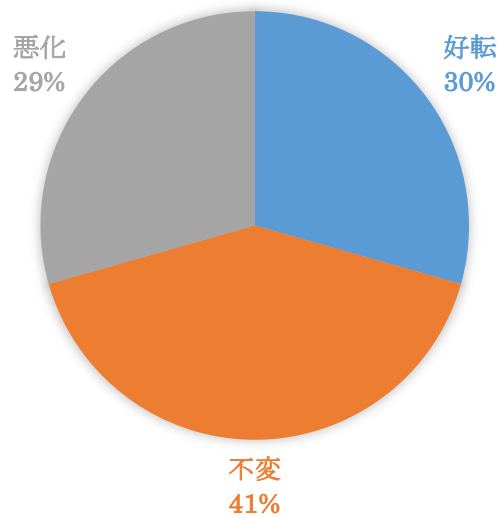
製 造 業	8社
建 設 業	2社
飲 食 業	2社
小 売 業	1社
観 光 業	3社
サービス業	1社
計	17社
- 4 調査項目
 - ① 3か月前と比べて
 - ② 前年同期と比べて
 - ③ 3か月後の見通し※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。
 - ④ 従業員・女性が働きやすい職場制度について
- 5 業況 DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

Volume 18

主管 ふじみまち産業振興センター

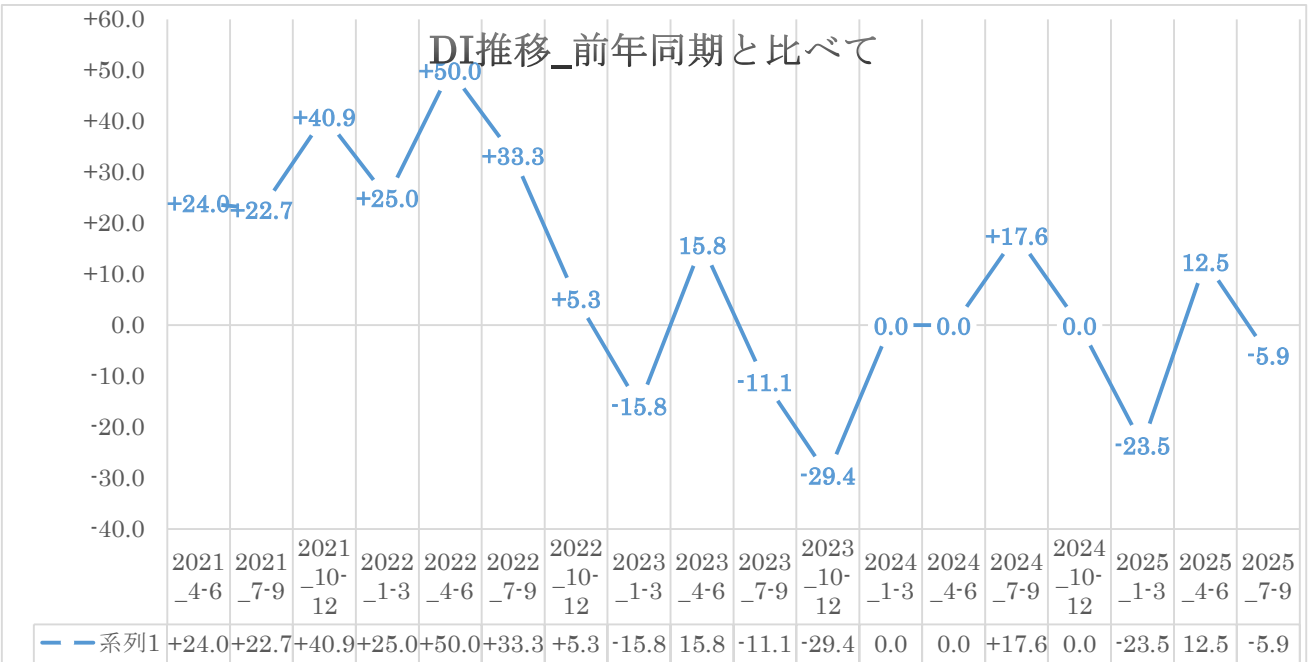
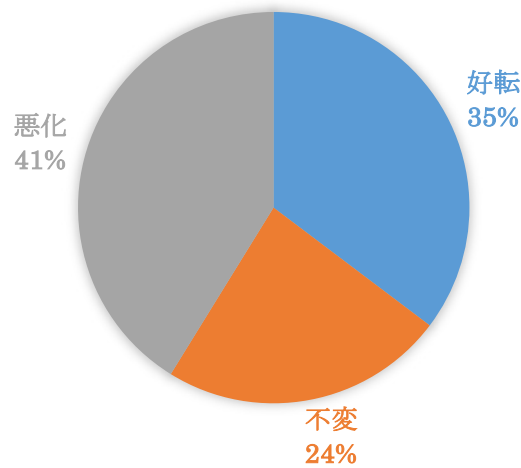
<調査項目① 3 か月前と比べて>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	5	7	5	17		→
	構成比	29.4%	41.2%	29.4%		0.0	
製造業	実数	0	4	4	8		↘
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%		-50.0	
建設業	実数	0	2	0	2		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
小売業	実数	0	1	0	1		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
飲食業	実数	2	0	0	2		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
観光業	実数	2	0	1	3		↗
	構成比	66.7%	0.0%	33.3%		+33.3	
サービス業	実数	1	0	0	1		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	

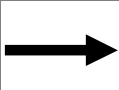


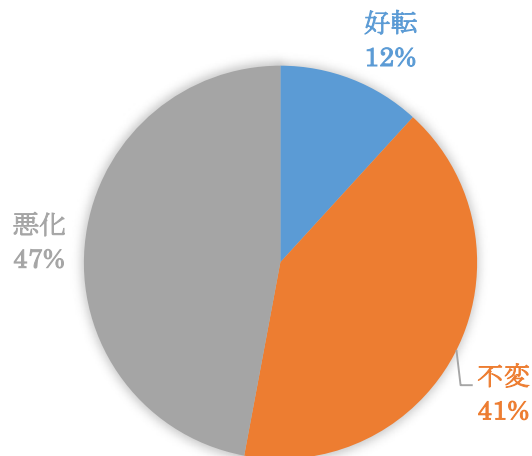
<調査項目② 前年同期と比べて>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	6	4	7	17		↘
	構成比	35.3%	23.5%	41.2%		-5.9	
製造業	実数	3	3	2	8		↗
	構成比	37.5%	37.5%	25.0%		+12.5	
建設業	実数	0	0	2	2		↘
	構成比	0.0%	0.0%	100.0%		-100.0	
小売業	実数	0	1	0	1		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
飲食業	実数	1	0	1	2		→
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%		0.0	
観光業	実数	1	0	2	3		↘
	構成比	33.3%	0.0%	66.7%		-33.3	
サービス業	実数	1	0	0	1		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	

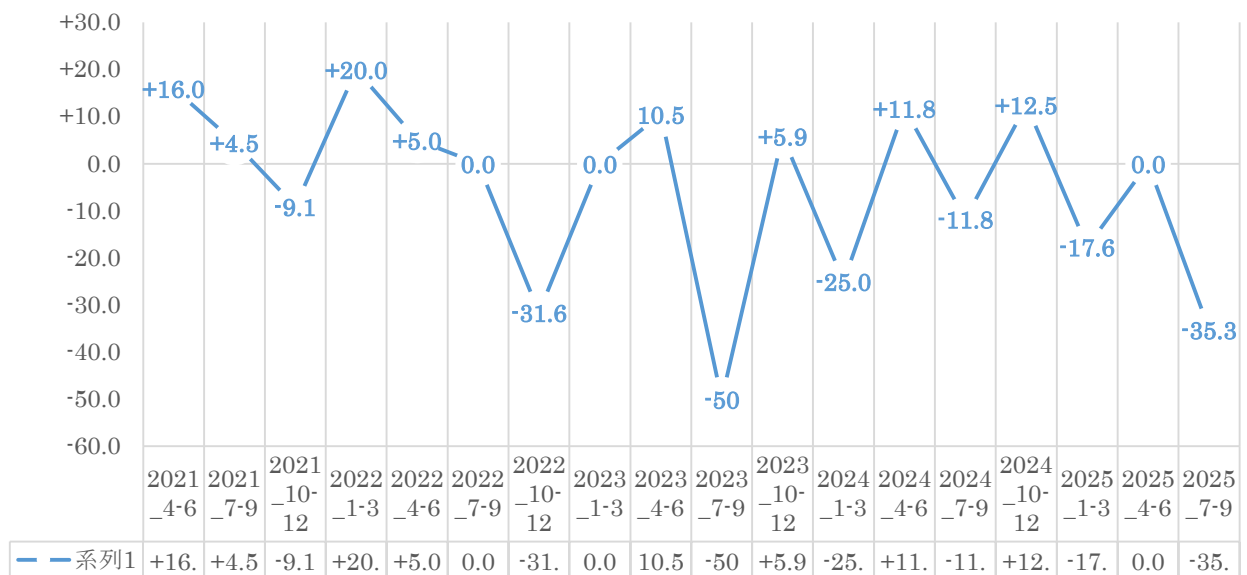


<調査項目③ 3か月後の見通し>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	2	7	8	17		
	構成比	11.8%	41.2%	47.1%		-35.3	
製造業	実数	1	4	3	8		
	構成比	12.5%	50.0%	37.5%		-25.0	
建設業	実数	0	1	1	2		
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%		-50.0	
小売業	実数	0	1	0	1		
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
飲食業	実数	0	0	2	2		
	構成比	0.0%	0.0%	100.0%		-100.0	
観光業	実数	0	1	2	3		
	構成比	0.0%	33.3%	66.7%		-66.7	
サービス業	実数	1	0	0	1		
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	



DI推移_3か月後の見通し



<従業員・女性が働きやすい職場制度について>

従業員・女性が働きやすい職場制度について	業種
制度としては無い。70歳を超えても雇用継続を行っている。	観光業
子育て応援宣言	製造業
有給休暇・遅刻・早退の電子申請	製造業
制度ではないですが、毎月末に翌月の「子供の学校行事や通院予定」を優先して休日を決めています。	製造業
有給休暇取得について柔軟な対応・ドック検診費用の全額会社負担・毎週月曜日の全体朝礼を実施の上、意見交換など	製造業
現状で従業員は全員女性なので、自分たちが働きやすい環境を日々追及している。	観光業
社内でスポーツクラブ（マラソン、登山など）を設立し、協調性や連帯感を育んでいます	建設業

<経営者の眼(見方)>

事業主コメント	業種
賃金上昇に伴い、社会保険料の負担が重い	製造業
原料や資材、高熱費といった経費は引き続き高騰していますが、販売価格への転嫁も進んでおり、影響は比較的小さく収まっています。	製造業
景気の悪い話しか聞かない。先行きが不透明。	製造業
我々ものづくり屋が日本に残れるか不安要因が多い。昭和の大量生産により高度成長期を乗り越えてきたものづくりは期待できない。製造業を根本的に改革をして行き、柔軟な対応が必要不可欠だと思いますがグローバルな時代でもあり海外進出もしていく必要もあるかもしれない。結論から言うと大量生産ではなく多品種少量生産であり国内に残る企業である為には企画開発商品を作り出し自社オリジナルメーカーになり消費者に直接販売できる企業しか残れないような気がする。その為には柔軟な若い力と発想力が必要。ものづくりの産業革命に來たように思う。古い考えや古い人間は一線から下がり時期と思うので経営人の改革が入口にあると思う。	製造業
高市政権に期待するとともに、暫定税率廃止に大いに期待しています	サービス業
7～9月は受注量が激減した。トランプ関税や米中貿易摩擦が原因の一つと考えられます。年末に向けて少しずつで回復するかと思います。	製造業
7月に若干値上げをさせていただいた結果、去年同期より売上は増加しましたが、それ以上に材料費や経費、人件費も上昇しているため利益は減少となっています。10月以降の最低賃金UPによる人件費増加への対応策を検討中です	飲食業
新政権になって、今後景気回復の希望はあれど見通しはまだ立たない状況なので、まだまだお客様の財布の紐が固い印象。／二大リゾート無料優待券は好評だが、「無料」目当ての単価率が低くマナーの悪い客が増えてきている。各地へのアピール方法をもう少し工夫してほしい。	観光業
暑さが長い気候の為か、9月終わりまで観光客が多かった印象です。周遊券の利用も多く、周遊効果があると改めて思いました。今後の3ヶ月については、寒くなっていく時期で人の動きが少なくなる上に、グリーンシーズンからスキーシーズンへの切り替えもあってか毎年客足は減る傾向にあります。寒くなる前の紅葉シーズンに期待したいです。	飲食業
観光客数が少ないわけではないのですが、日帰り客が多い様子です。何でも「無料」「割引」を求めるお客さんが多い傾向でした。(しっかり「無料」「割引」をリサーチしてから来られているお客さんが大半です。)	観光業
5月が決算なので前期は売上も大きな工事が2件あったので良かったが、今期は工事の予定が立たず、売上・利益もとても厳しいと思っています。	製造業
相変わらずの円安による資材価格の高止まりで、建築コストは高騰したままであり消費者マインドの改善も見込めそうもないため、受注環境は冴えないまま年末まで行きそうな雰囲気。	建設業